



# 石の聲

—精華町の道標と記念碑—

上野英雄

はじめに

主題「石の聲」は、次の拙い我が冠句に拠る。

道しるべ 黙した石の聲を聴く

石の聲 秘めた歴史を語るかに

昭和五十二年頃から調査した約十年間の記録である。昭和五十八年二月四日「精華町の自然と歴史を学ぶ会」で、条幅・写真・拓本などを展示し、スライドでその一部を発表しているが、更に精査したもので、筆者研究のささやかな記念碑と言っても過言ではない。父と歩き母と参拝し、祖父母に聞いて、子ども心に残っている石たちと再会してみたいと思ったのが、この「石の聲」を纏めるきっかけとなっている。いざ始めてみると、今はつい見過ごされがちなこの石たちをどうしても紹介してみたくなった。小さい石の大きい波紋を希求するように

なったのである。道標と記念碑を踏査し、先人の力強い営みを追求することで、伝統を次の世代に引き継いで欲しいと思ったのだ。

「石の聲」を纏める間中、歩いて・観て・写して・聴いて・考えて・深める喜びを私は石たちから教わった。

### ◎黙して語る道標

道標とは、広辞苑によれば「道路を通行する人の便宜のために、木、石などで作り、方向、里程などを示す表物、道しるべ」とあり、また国語大辞典では「通行人の便宜のために方向、距離などを書いて、道ばた、辻などに建てたしるし。みちしるべ」となっている。私には、昔の不安な旅人たちが、どれだけ慰められ励まされたかを思う時、ただの石ではなくそこには何か温かいものが感じられるのである。

それでは町内の道標を紹介してみよう。

#### 1 北稲八間区集会所西北<sup>きたいなやつま</sup>（枠内は銘文、上は銘文を刻んだ方位を示す）

真ん中に地藏像があり、約二十年前に盗難防止のため「新し池」東北より現在地に移転された。

東

右  
かわ  
ち

左  
は  
大  
坂



## 2 植田区来迎寺入口

道路舗装のため、下部が埋没している。裏面には「昭和三年稟三宅安兵衛遺志建立」と記されている。

東  
墓 来 迎 寺

お千代

半兵衛

## 3 南区J R 祝園駅北踏切すぐ東

裏面には「昭和三年春京都三宅安兵衛遺志建立」とある。



南  
神武帝旧跡祝園神社是十町

## 4 西北区祝園神社西方（庄司理宅東南角）

道路舗装のため下部が埋没しており、裏面の拓本をとると「七月」とだけ解読出来るが、家屋と接近しているため、それ以上は不明。



6

山田区消防器具庫西

南

|      |     |
|------|-----|
| 右京よど | 左なら |
| 八わた  |     |



5

西北区祝園神社西方（福森清二宅裏庭）

現在地の南方の溝に埋められていたものである。

南

|    |     |     |
|----|-----|-----|
| 祝園 | 右京  | 北   |
| □  | 京よ度 | 左なら |
|    | 八わた |     |

※「京よ度」は「京淀」の意



7

柘榴区極楽寺北（谷中憲二宅西角）

二基とも家屋新築のため倒れている。

西 南

|        |        |
|--------|--------|
| 左 大坂   |        |
| 右 きすい可 | 左 はぜミち |

※

「きすい可」は  
「木津伊賀」の意



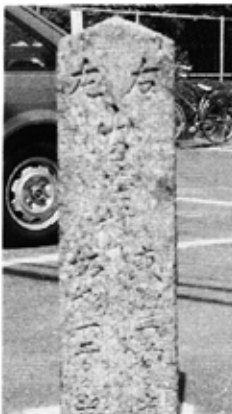
8

乾谷区旧山田荘小学校南東

南

|   |       |       |
|---|-------|-------|
| 右 | 山田荘村  | 東畑    |
| 左 | 柘榴    |       |
|   | 一二〇〇米 | 三五〇〇米 |

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 右 | き | す | い | 可 |
| 左 | は | せ | み | ち |
| 大 | 坂 |   |   |   |



## 9 東畑神社境内

イは「安永六」の銘があり元は乾谷三叉路に、口は「鳥谷の池」の三叉路にあった。

東

右 木津いが道  
左 ほうそ乃

イ

※「ほうそ乃」は「祝園」の意

東

右 かたの  
ミチ  
左 大坂

口



## 10 自衛隊内庭園

東畑区より寄贈の四基がある。

イ

すぐ 八わた

道

口

う ち た

ハ

右 きよたき  
大坂

ニ

右 きづ

道

左 いなやずま



## 11 僧坊区の藤田亨二・中川徳一両家の間の郡山街道に、約五十年前には「奈良へ三里」と刻まれた碑があつ

たと聞くが、残念なことに現在はない。

○乾谷から旧道を通って南稻八妻へ出る道に「右はうその」「左は東畑」と記した碑があった。町外から来られた方が、その碑を見て「嘘の道はどこですか」と問われたことがあるようで、「嘘のような本当の話だ」と、故松田達樹翁に聞いた日が憶い出される。これは「波布理會能」<sup>はふりそ</sup>の故事から「はふその」転じて「はうその」となったために起きた面白い話である。

○菅井の「のりこし」の堤の下のとこに、「宝住寺」と記された道標が転がっていた。M氏とS氏と私の三人で、小雨の中を一輪車で運んだが、コンクリートで固定する前に心ないマニアに盗まれたのは残念でない。その時、写真撮影をしておいたのがせめてもの慰みであるが、悔悟返却を望んでやまない。

### ◎歴史を秘めた記念碑

それでは次に記念碑を紹介してみよう。まず、記念碑とは広辞苑によれば「或る事件を記念し、後世に伝えるために建てた石碑」とあり、また国語大辞典では「ある人の功績を伝えたり、ある出来事などを記念したりして建てた石碑」となっている。まさにその通りで、調査していくと一つひとつの碑にそれぞれの思いと歴史が私には感じられるのである。以下町内の記念碑について主要なものを解説し、最後に全資料を一覧表でしめた。

## 33 下 狛 瓜生田遺跡碑



注・一書には明治四十年、他書には一八九六年（明治二十九年）と記しているが誤りである。

| 東                                               | 北                         | 西                  | 西                                            |
|-------------------------------------------------|---------------------------|--------------------|----------------------------------------------|
| <p>明治三十九年四月三十日建<br/>發 岩 井 武 俊<br/>企 兩 座 太 夫</p> | <p>東京帝国大学史料編纂官正七位藤田明書</p> | <p>瓜 生 田 の 遺 跡</p> | <p>名 寄<br/>やま城の狛の瓜生田昔よ里<br/>誰可為とてか作りそめけむ</p> |



孝貞紀

永

南

錫

爾

類

杉本氏山城國相樂郡山田莊人能事姑以孝貞聞曩蒙京都府賞頃  
近村訓導士與村人謀欲鐫石表之以為模楷屬余紀之氏名志津父  
曰善兵衛安政二年嫁同村上村利右衛門利右衛門有母及妹家素  
貧困佃以糊口妹璧而癡姑竄而愎其待氏苛虐無所不至而氏事之  
怡怡如也姑曰嗜魚肉又好詣神佛一切費金常使氏辦之嘗出其所  
紡絲曰我將詣弘法大師為製新衣限以三日氏受命不敢辭即日附  
染工工成乃自織不眠者三晝夜裁衣之自送到數里之外歸亦迎之  
途中概以為常又深憫妹不具嘗患下血數汚衣衾氏為洗濯毫無厭  
惡之意妹常語人喜泣及夫歿身任家事力作不倦生一女僅四歲養  
同村某子乙松為後明治五年二月姑歿氏追慕不止每朝汲溪流供  
位拜跪如事生一家化之亦以孝友聞往歲

皇后命侍臣輯明治孝節錄備載氏事蹟氏今齡六十猶教子弟不懈  
云夫孝貞者美德也今國運隆盛教化普及然能躬斯德者無聞也如  
杉本氏篤行可師表于世矣予所以不辭而紀之

大勲位晃親王篆題



明治三十八年五月相楽郡長從七位松野新九郎譔

正八位巖本 範治書

注・宮内省御藏版「明治孝節録」には、「……眞に奇特の婦なりとて、金一圓賜りて賞與し賜へり」と記されている。

發起人

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 相川愛之助  | 中村五郎兵衛 | 岡嶋熊治郎  |
| 上村源三郎  | 中村五四郎  | 高浦治兵衛  |
| 中井孫右衛門 | 清水八藏   | □本庄太郎  |
| 中川和藏   | 木原伊右エ門 | 藤原五右エ門 |
| 稲葉太郎兵衛 | 木原幸太郎  | 杉浦太七郎  |
| 中谷孫治郎  | 木原伊太郎  | 岩前忠兵衛  |
| 木原熊次郎  | 中井勇三郎  | 植西清藏   |
| 林幸太郎   |        |        |

注・相川愛之助は、明治二十六年四月から同三十六年十二月までの十年八カ月間山田莊村立第一尋常小学

校長（山田莊村誌）。愛之助、妻なかとの連記の碑は、大正十五年四月に建立され、柘榴墓地にある。

44 祝園 森島清右衛門功績碑（中区集会所前）

| 功                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 績 | 碑 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|
| 森島清右衛門君資性豁達寛厚器識高邁夙ニ身ヲ政界ニ投シ知名ノ士ト<br>交リ衆望ヲ荷ヒテ祝園村長ト為リ又同村農會長信用組合長相築郡會議<br>長郡農會長等ノ公職ニ在ルコト多年地方自治ノ為メ貢獻スル所大ナリ<br>キ明治二十二年率先シテ旧奈良鐵道及城河鐵道敷設ヲ發企シ沿線興隆<br>ノ基ヲ開キ大正六年木津川氾濫ノ慘禍ニ鑑ミ治水ノ急務ヲ唱道シ沿岸<br>廿餘ヶ町村ヲ代表シ私財ヲ擲チテ之レガ調査ヲ為シ河川改修ヲ帝國議<br>會ニ陳情請願シ以テ其ノ目的ヲ貫徹セシメタリ大正十二年耕地整理ノ<br>必要ヲ認メ自ラ組合長ト為リ木津川畔異垣外ニ灌漑唧筒ヲ設置シ水路<br>ヲ新渌シ農道ヲ設クル等凡ソ君ノ籌策スル所思慮周密事ニ當リテ沈毅<br>果斷刻苦精勵セシヲ以テ些モ差升スル所無シ今日豊穰祝園ノ名高キ所<br>以ハ一二係リテ君ノ功ニ因ル茲ニ諸有志胥謀リ君ガ功績碑ヲ建テ以テ<br>其ノ恩澤ヲ永ク後昆ニ傳ヘントス |   |   |

昭和十五年四月 京都府知事從四位勲三等

赤松小寅篆額

石田長義撰并書

76 北稻八間 奉獻水田碑

奉獻水田碑記

旧稲田村藤田金一郎西野恵之助両君兄弟也  
竝以篤行稱大正六年二月以其所有之田南稻

八妻之地一段三畝十一歩寄附村小学校約雖  
他日校或廢合田屬旧村落不得移於新管昭和

六年十月廢稲田村數村併合校亦廢矣於是村

長木村猶次郎君欲獻之于村祠武内神社也詢

之両君両君快諾村會亦可之田為神社之有蓋

履前約永劫充祠資也因記其梗概以諗後昆云

昭和七年一月中澁



徳 官幣大社石清水八幡宮々司 正五位

勲六等田中俊清篆額

京都府立桃山中学校長從五位勲五等田中常憲撰文

皇都 七十一叟子潤徳永光廣謹書

南

|           |            |            |            |            |            |                                          |            |            |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------------------------------------|------------|------------|
| 黒崎太次郎君謡曲碑 | 君諱則家安政三年生山 | 田莊父則次君出曩祖新 | 羅氏家世儒家也君天性 | 温厚奉神職長謡曲遠近 | 来乞教者不鮮今当還曆 | 尚瞿鏢 <sup>マヤ</sup> 凌壯者董 <sup>マヤ</sup> 陶郷党 | 子弟孳々不倦焉於茲乎 | 門人相謀為酬恩樹石刻 |
| 發起人       | 中谷庄太郎      | 山本枡太郎      | 吉本房次郎      | 和本角兵衛      | 中西新一郎      | 樋浦米藏                                     | 森本繁三       | 川端留吉       |

面

裏



文以胎不朽

大正五年春

藍綬褒章受領者松田弥三郎撰

嗣子補助

吉岡孫次

島崎亀太郎

杉浦音次郎

### 講和記念

昭和二十七年七月十八日吉野地方の地震により堤防の大部崩潰せし為相楽郡耕地課の設計指導により区民一致協力復旧工事に着手す時に昭和二十七年十二月十日竣工は昭和二十八年三月十日工事中出場人員延一阡八百余人総経費百五十余万円也永遠に不動を祈る



昭和二十八年三月吉日 植田區建之

96 菅井 修徳社碑

東 修 徳 碑

夙憂道義之類廢明治十八年設修徳社明倫正名  
今茲同志相謀釀金建碑於氏神之側以記其來由  
傳美千載者所以勸奨其修徳於後人也

明治三十一年十月

社長 松田弥三郎謹誌

建碑發起人 堀池熊次郎 大賀松之助

堀池奈良松 堀池常太郎

堀池宇之松 津川常次郎

大賀萬吉 福井熊藏

岡崎甚之助 松元忠藏

贊成人 修徳社員中 發起人の下台石に

正社員名約五十名（省略）

